

# 東田利町報

## 町の生活目標

1. 町の心は明るいあいさつ
2. きれいな町で健康な暮らし
3. ミエ・ムダはぶいて生活の工夫
4. 学び・働き・助けあう・ゆたかな心

No. 302 昭和55年5月1日発行 昭和42年7月18日第3種郵便物認可 毎月1日発行



No. 302

5 / 1

### 《転作物の安定生産を》

転作作物の安定生産と定着化を — と、町農業総合指導センターでは、4月2日・4日の両日、本荘農業改良普及所の斎藤・横田両普及専門員を講師に、「転作作物栽培講習会」を開きました。

会場にあてられた町開発センターには、野菜づくりはベテランと思われる母さん達を中心に延べ129名の方が集まり、重点作物として作付推進を図ろうとしている大豆・すいか・かぼちゃ・サトイモ・サヤインゲンの栽培方法の講義に、真剣に耳を傾け、メモを取っていました。

講習を終えた受講者は、収穫期にはりっぱな転作作物を — と張り切っていました。

小学校統合と危険校舎改築

各地区代表者が懇談

本町の小学校統合については、先月号の町報でもお伝えしました各地区の集会の結果を持ち寄り、四月五日に町開発センターで、各地区代表者による懇談会が開かれました。

各地区の意向

当日は、町長、助役、議員、教育委員のほか、各地区代表者五十名余りが出席、約三時間にわたって熱心な懇談が行われました。

懇談会では、まず町長がいさつに立ち、各地区での集会の状況を説明するとともに、円満な統合実現のため、改めて全町民の理解と協力を要請しました。

続いて、佐藤教育委員長が、委員会が提案している三校案の考え方について説明しました。

このあと、各地区代表者から、統合問題に対する地区住民の意向について次のような説明がなされました。

◎宿地区

地区としては、町・教育委員会の方針を全面的に支持し、この全町三校案に則した袖山小学校との統合を円満に実現するため、「宿地区小学校問

題協議会」を発足させた。

◎袖山地区

昨年七月に「袖山小学校を考える父母の会」を発足させており、その相談機関として顧問会も結成され、宿小との

統合を想定しながら地域の教育について再三検討し、地区全体会議も実施してきた。三月六日には、町当局及び教育委員、議会議員、地区住民参加のもとに懇談会が開催された。

◎蔵・法内地区

各自自治会からの委員、PTA、各分館、婦人会、青年会等の代表者で「蔵・法内地区小学校問題協議会」を組織し、小学校統合について昨年来数回にわたり協議検討し、老方

◎玉米地区

PTA全体集会、館合地区自治振興会、玉米・住吉両小PTA役員によって組織された「小学校統合促進委員会」等で協議を重ねて来た。

◎住吉地区

「小学校統合促進委員会」を中心に協議検討し、また、新校地の選定を求めて現地調査等を実施して来たが、實際上、新校地の獲得は無理であるとの結論となった。

その結果、道路整備に見合った統合の時期、通学手段等が問題として残っているが、三校案は妥当なものとして賛

成であるという意向を確認し、今後、全町三校統合案に則した宿小学校との統合について協議検討する組織として、父母の会、顧問会を中核とした「袖山地区小学校問題協議会」を結成した。

結論として、町で示した統合案は妥当なものとして賛成し、玉米小老朽校舎の解消と住吉小学校の複式学級解消のため、住吉地区地域協議会と一体となり、校舎の改築と統合の早期実現のための条件整

備を行っていききたい。このあと懇談に入り、会場ではいろいろな問題、意見も出しましたが、結論として、宿山、蔵、法内、玉米、住吉地区は、条件的意見を付しながらも三校案に賛成であり、老方地区だけは三校案に反対の立場を取っていることが確認されました。

再度老方地区で懇談会

出稼ぎ者もほとんど帰省した四月二十六日、朋楽荘を会場に、老方地区との懇談会を再び開き、町の方針を説明しました。

当日は、約五十名の地域住民が出席し、約三時間にわたって町長、議会議員、教育委員と懇談しましたが、意見の一致を見るまでには至りませ



△各地区代表者懇談会



△老方地区懇談会

町の見解としては、学校改築は制度上国の行政枠内で行わなければならないために、一定の期間内で行政事務を進めて行かなければならない事情にある事を説明して散会しました。

町農業委員選挙

二三新人を含め無競争当選

四月三十日で任期満了となる町農業委員の選挙は、四月十六日に告示され、翌日午後五時で立候補の届出が締め切られました。その結果、定数どおりの立候補者しかなく、二三新人を含む次の十名の無競争当選が決まりました。

また、町農業共同組合から

町では、全委員が出そろった段階で早急に初委員会を召集し、会長および会長職務代理等を決定し、新体制を整えることにしています。

は佐藤正一（64歳、葎沢）、農業共済組合からは小松眞一（71歳、黒沢）の両氏の推薦通知が提出されており、議会からの推薦は、今月上旬に招集予定の第二回町議会臨時会で推薦、選任されることになっていきます。

町では、真新しいランドセルを背に、ピッカピカの一年生が元気に登校している。「おはよう」と声をかけると、にこっと笑って「おはようございます」の明るい返事。何となくうれしい瞬間である。しかし、世の中、喜びの瞬間ばかりではない。新聞、テレビ、ラジオでは、連日のように幼い子供の悲しい事故を報じている。チョットと目を離したスキに道路に出て車に引かれ、誤って浴槽に落ち……泣いても泣ききれないような不慮の事故の何んともいふことか▼先月、秋田市の若夫婦が、二歳の誕生日を目前にした一人息子を、近くの用水路で失ったニュースが報じられていた。この若夫婦は、いつそ二人で後を追おうかとも考えたと言う。どんなにか悲しみの深いことだろう▼私たちの身の回りには、数多くの危険が潜んでいるという。起きてからでは遅い。五月五日は子供の日、家の回り、地域を見渡し、子供の安全、健やかな成長について今一度考える口にしてはいかがだろうか。

当選者氏名等 (立候補届出順略)

小松哲夫	53歳	現	須郷田
小野庄治	41歳	新	時雨山
小野長光	53歳	新	宿
佐々木藤喜	52歳	現	大琴
伊東隆	54歳	現	蔵新田
遠藤孫助	68歳	現	小倉
高橋典三	51歳	現	久保
小松鉄郎	51歳	新	下通
小野与四雄	54歳	現	寺田
鈴木孝弥	39歳	現	沼

社教主事に小松先生派遣

畑山先生は由利出張所へ

先の県教職員定期異動により、県教育委員会から派遣されてきました社教育主事の畑山昭一先生（島、元東由利中教諭）が県教育事務所由利

出張所に転任され、新しく小松昭作先生（下小路、前袖山小教諭）が四月一日付で発令されました。



小松昭作先生

小松先生は、今後二年間の予定で、町社会教育スタッフ陣の一人として社会教育の推進に当たっていくことになり、今後の活躍が期待されます。

火災発生!! 全分団出動せよ 館合地区で大火防止訓練



実戦さながらの訓練を展開した大火防止訓練

下小路で火災発生、全分団出動せよ——全県春の火災予防運動期間最終日の四月十二日、館合地区で大火防止訓練が行われました。

この訓練は、町の防災計画に基づいて防災関係機関が一体となり、気象等悪条件下の家屋密集地域での大火を想定し、地域住民参加のもと、災害の予防、防ぎよ等防災体制

の強化と防火思想の高揚を図ることを目的に毎年実施しているものです。

当日は、町消防団員、地元婦人消防隊、役場特設消防隊、分署員、合せて二百三十名のほか、警察官や交通指導隊、東北電力東由利出張所、それに、自動車ポンプや小型ポンプ、救急車など車両十八台が出動して実戦さながらの訓練

を展開しました。

風速九・五級の南西の風が吹き、異常乾燥注意報・火災警報発令下の午前九時三十分、館合下小路で火災発生。通報を受けて待機消防隊がたちに出動。火災の鎮圧に当たっていたところ、風下に第二次火災が発生した。という想定のもとに消火活動、救急車出動による救急活動、エアホームノズル使用による油火災消火訓練を展開。

十時十二分、消防隊総力をあげての有効適切な消火活動により、第一次、第二次火災とも遂に鎮火、約四十分間にわたる訓練を終了しました。このあと、防火思想普及のため、農協玉米支所前から玉米小グラウンドまで分列行進をしました。

これからは空気の乾燥した日が続く、火災の発生しやすい時期となります。「これくらいと思う油断を火が狙う」火気の取り扱いには、一人ひとりが目頃から十分注意をし、赤い炎の犠牲にならないようにしましょう。

出稼ぎ就労者打合せ会

就労経路の正常化を

季節社員制度も検討中

春の農繁期を迎え、ほとんどの出稼ぎ者が帰省した四月二十五日、昭和五十四年度の出稼ぎを反省し、問題点を協議する「出稼ぎ就労者打合せ会」が、町開発センターで行われました。

当日は、グループリーダーなど約八十名が出席、町長、町出稼ぎ対策担当職員、農業委員会、本荘公共職業安定所長、同上席官らと、雇用保険の給付手続きや、安全就労と健康診断などについて意見の交換を行いました。打合せ会では、先ず小松町長があいさつに立ち、出稼ぎ者の労をねぎらうとともに、五十五年度の町財政及び主要施策の概要について説明し、円滑な町政推進のために理解と協力を要請しました。



就労前健康診断優良グループ就労者代表として菊地さんに表彰状が贈られた

続いて、本荘公共職業安定所長、農業委員会長からあいさつがあり、本人も留守家族も安心して就労できる出稼ぎをするため、「就労経路の正常化」「技能修得」「安全な就労事業所の選定」などについて意見や要望が述べられました。

このあと協議に入り、町担当職員及び安定所上席官から昭和五十四年度の出稼ぎ就労状況、安全就労と就労前健康診断、雇用保険の給付手続きなどについて、それぞれ説明されました。

また、参加者からは、「季節社員制度」について質問が出され、これに対して安定所長から、「……事故もなく長年にわたって同一事業所に就労している方に対し、「求人

手続の簡素化」「退職金制度の制定」「有休休暇制度の確立」「帰郷、上京の際の旅費支給」「就業規則の明文化」「先任権の確立(優先して雇用される権利)」など、一定の規則によって、出稼ぎ者の現状に合せた処遇の改善を図ろうとするものである」と説明がなされ、さらに、町担当職員から、「本町でもこの制度を取り入れるよう、現在検討中である」と付け加えられました。

本町の出稼ぎ者数は、昭和四十七年の一、一〇〇人をピークに年々減少してきていますが、それでもなお八百人近い多くの人たちが半年もの長い間、家を留守にする現実です。景気が回復基調にあると言われながらも、原油価格の値

土地改良区総代決まる

本荘市東由利町土地改良区の総代選挙は、四月十五日に立候補の届出が締め切られ、その結果、届出者が定数を超えないため、本町関係では次の方々が無投票当選となりました。(届出順・敬称略)

- 〔第一選挙区〕
  - 大場六治郎・渡辺与七・渡辺要一・小松兵亮・小松浅三
  - 嶽石忠治・渡辺哲治郎・佐藤文一郎・小松正幸・佐藤文敬・畠山与三郎・長谷山悦雄
  - 小野民治郎・佐藤昇・畑山

上げ、物価高等々、なお厳しい経済情勢から、就労条件の悪化や賃金不払、事故の発生などが懸念され、町ではこうした事態に対処するため、就労経路の正常化や健康診断の実施、技能訓練講習会の開催など、現状に即した援護対策を進めることにしています。

木島さんに感謝状 菊地さんに表彰状

また、席上、長年にわたって本町出稼ぎ者の地位向上と安全就労に尽くされた木島忠一さん(黒沢)に感謝状、出稼ぎ就労前健康診断受診優良グループ・西村工業就労者代表として菊地光三郎さん(新沢)に表彰状が、それぞれ町長から贈られました。

喜五郎・長谷山松記・荘野徳一郎

〔第二選挙区〕

- 小野昭一郎・佐藤正治・小松長四郎・佐藤光男・小松政治・小松吉男・佐藤佐市・佐藤稜二

〔第三選挙区〕

- 阿部隆一・木島久成・千葉欽一・小笠原喜一郎・小笠原豊吉・阿部善信・大日向忠

〔第四選挙区〕

- 佐々木堅吉・佐々木善一郎

町長日記

四月六日、来秋した後藤田自治大臣に町村会の立場から地方財政について陳情する。要旨は、地方財政制度の抜本改正であるが、その主軸は地方交付税のアップである。

御承知の様に地方交付税は、三税(所得税、法人税、酒税)の三二を地方に交付する制度である。

本町では、五十五年度は約七億三千万円程と見込んでおるが、この交付税交付金が一〇億アップすれば七千万歳出が増える。この様なことから、財政の乏しい県や町はこの増額を何年来から要望し続けて来たが、国全体の財政事情から実現をみる事が出来ないでおり、この改善を陳情する。大臣は、現税制内では不可能であるので、税制改正の機会には検討すべきだという二アンスの解答であった。

また、新過疎法が制定されて、十五年間で人口が二〇〇〇減、財政指数は〇・四以下の町村が該当し、秋田県は十町村が増えて三十一町村となり、全町村数六十の半数以上となった。東由

利の様な条件の所は、過疎中では特別な対策が必要であることを陳情した。

四月三十日、武藤農林大臣が大潟村視察に来秋した機会に、農林水産関係者で歓迎会を開いた。

大臣は五十二歳、青年という感じ、幸い同じテニールに座ったので、政治家臭のない好印象の持たれる人柄。大臣の話の要旨は、現在穀類の自給率は六八パーセントであるが、これを八〇パーセントまで高めたい。潜在農業人口を確保出来る社会構造を考えたい。米食自給率の低下を防ぎたい。秋田県の様な農業県にとつては、これまでよりは明るい方向の農業政策にしたい、等の話があった。懇談の折に、うまい米は品種だけでなく堆肥によるものでもあるから、堆肥の増産の出来る秋田県の山間地帯を良質米の生産地帯であるという認識を持ってもらいたい、ということ、米飯給食はその土地の良質米を食べさせる様な制度にしてもらいたいと陳情した。

# 保健推進員会 改め 愛育会 に

## 健康で明るく住みよい町を

町保健推進員会は、四月十五日に町開発センターで総会を開き、名称・組織の変更、規約、事業計画及び予算について審議、いずれも原案どおりに決定、新役員を選出して閉会しました。

町保健推進員会は、去る昭和四十九年に七十九名で組織され、以来、委嘱替えごとに増員し組織を強化しながら自主的活動を中心に、保健衛生思想の普及や町民の健康保持増進に大きな役割を果たし、着実な実践を続けて来ています。

今年三回目の委嘱替えの年にあたり、総会には各地区から選ばれた新しい推進員百三十七名中百三名が出席しました。

総会では先ず、「自らの健康は自らの手で守る……」という精神に基づき、より地域住民に親しまれ、身近に感じられる自主的組織にと、これまでの「保健推進員会」の名称を「愛育会」に発展的改称、また、町内を住吉・館合・老方・蔵・法内・宿・袖山の五地区に分け、それぞれ愛育班を組織して、事業運営を円滑かつ能率的に実施していくことにしました。

このあと、規約、事業計画及び収支予算について審議、いずれも原案どおり決定、最後に新役員を選出して閉会しました。

健康は最大の宝なり……：名称も新たに、町民一人ひとりの健康保持増進を図り、明るく住みよい町づくりをすすめるようとする愛育会の活躍に、関係者は大きな期待を寄せています。

なお、新役員は次のとおりです。(敬称略)

### 善意の献血ありがとう

#### 一〇三名の方がご芳志

四月二十二日、県の移動献血車「あかつき号」が来町、大蔵館前など町内五カ所で次の百三名の方々から尊い血液の提供を受けました。

発見することが大事であり、注意しなければならぬ。適期に発情させるには、適度な運動と良質粗飼料給与が大切である。

関係者は、この善意の献血にご協力くださった方々に対し心から感謝しています。

また、どういうわけか明け方に分娩する例が多くあり、目を離さないようにしなければならぬ。ただこの場合、牛が人間の姿を見ると、人に頼るといふことがあるので、牛を監視できる程度に暗くし、姿を見せないよう気をつけなければならぬ。

初産は、当然のことながら一生に一度のものであり、特に注意してほしいというのである。

以上、かけ足で申し上げたが、牛の改良には長い時間がかかることであり、地域のみんなが一つにまとまって「良質牛生産地」の確立に努力していったらいいものである。

### 講演のあらまし③

繁殖使用開始時期としては、受胎時に十四〜十五カ月令、体重三〇〇キ、体高一一五キを目安とする。

### 肉用牛の今後の方向と飼い方

東北農業試験場 畜産部第一研究室長 吉田正三郎

ほしいということである。肥り過ぎの牛は、分娩時に子牛、母牛の死亡率が高く、泌乳量も少ないという結果が出てくる。

このほか、分娩後の発情を

また、どういふわけか明け方に分娩する例が多くあり、目を離さないようにしなければならぬ。ただこの場合、牛が人間の姿を見ると、人に頼るといふことがあるので、牛を監視できる程度に暗くし、姿を見せないよう気をつけなければならぬ。

以上、かけ足で申し上げたが、牛の改良には長い時間がかかることであり、地域のみんなが一つにまとまって「良質牛生産地」の確立に努力していったらいいものである。

(終)



### 町長が全職員に訓示

## 挙措・動作・言語・服装はきちんとして

昭和五十五年度の年度当初に当たる四月一日、小松町長は職員人事の異動辞令を交付したあと全職員に対し、次のような訓示をしました。

### 様々な事務処理に 対応できる勉強を

昭和五十五年度という新しい年度が今日から始まったわけです。また、八〇年代といふことばも、何年前から聞きなれたことばであります。この八〇年代も今日から始まるということばです。

八〇年代というものは、一つの経済成長から新しい時代への過渡期で、そこに色々な摩擦が出、行政の上でも様々な問題が出て来るのではないかと思います。と同時に、国内的にも国際的にも、突然何かが起こる可能性が充分あると思います。

我々にとっては突然に見えるけれども、物事というものは、必ず起きるべくして起きるものであり、そういうことについていかなければならないと思ひます。

町行政の内部的なものです。が、今度、広域行政の中で七市町村共同して電算機を導入することば、今年から準備に入ります。今のところは、

主に住民課、教育委員会、選管等限られた範囲ですが、我々は、この電算機に対応する勉強をしていかなければならないと思ひます。

もう一つ関連して、我々がこういう組織の中で仕事をしていく上には、「能率」といふことを考えなければなりません。能率といふことを考えた場合、一つの考え、思考、それを行動に移すものを整理しなればいけないわけで、そういう意味で、標語に掲げている「連絡・協議・計画・実行・確認・報告」といふことを言っているわけでは

現在「オンライン」といふことばがあるでしょう。これは、一つのラインに乗せていくということ、色々な情報を企画化して電波等に乗せ、瞬間的に処理しようとする性質のものだろうと思ひます。

我々の日常の事務、社会には、様々な事務処理の方法が出て来ます。そういうことに対応していけるような、電算機そのものを使わなくても、我々が頭を整理して、お互いに連絡・協議をし、確認・報告し合つてラインの上で一緒

に仕事を乗せていこうということが必要だろうと思ひます。

### 甘やかしのない 庁内教育を

皆さんは、東由利の顔だろと思ひます。県庁等に行きましても、「誰それが来た」とはあまり言わなくて、「東由利が来た」と言うでしょう。ですから、皆さんの顔は東由利を代表している部門だと思ひ

います。

仮りに、ここに九州の青年が一人来た。たまたまその青年がりっぱな青年であったということになる、その一人の青年を通して九州人といふものを我々がイメージするわけです。九州の人口は千何百人いるわけですが、たった一人、あるいは二、三人の間を通して九州人をイメージする、あるいは北海道人をイメージする、そういうことで、皆さんは、東由利をイメージさせる顔だということ、を充分意識していただき、挙措、動作、言語、服装といったものはきちんとしてもらわ

## 伸朗君に文部大臣奨励賞

### 全日本 学生児童 発明くふう展で

社団法人日本発明協会、毎日新聞社が主催する第二十八回全日本学生児童発明くふう展で、宿小小学六年



賞状を手に喜びの伸朗君と斎藤校長（前左）、作左部先生（後左）小松町長

なければなりません。

今の社会にある教育の一番悪いものは、甘やかしだと思ひます。母親が自分の子供を甘やかして、社会が甘やかして適当にあしらつておく、これが一番、教育のマイナスだと思ひます。

役場の中の教育といふものは、お互いに甘やかしを持つべきではありません。言うこととははっきり言う、やらせることははっきりやらせる。また、上司は、やらせるだけの自分の勉強が必要で、自分もそれだけの行動をする。こういう甘さのないお互いのふれあいというもので、

用しているしゃもじの柄の上部の掛け穴の一部を抜き取つて、多数のしゃもじの中から必要なものを自由に、すぐに取り出すことができるように改良したもので、ちよつとしたアイデアが高く評価されたものです。

授賞式は、三月十八日午前十時から東京三越本店不二の間に名誉総裁である常陸宮さまご夫妻をお迎えして行われ、賞状並びに記念の楯、副賞のラジオカセットレコーダーが贈られました。

また、翌十九日には、皇太子さまご夫妻をお迎えして作品説明が行われ、その際ご夫妻より伸朗君にじきじきに激励のおことばをたまわりました。

本町の教育が生まれてくると思ひます。お互いつらいことですけれども、どうかそういうつもりで勉強していつていただきたいと思います。

町民に対しての態度は、やはり、「親切」「ていねい」といふことが原則でしょう。そして、わからないことにはよく説明をしてやるということだろうと思ひます。

こうしたことで町民の信頼も得、りっぱな行政に一步一歩近づいた昭和五十五年度の行政をやつていきたいと念願しておりますので、皆さんもお互いに勉強し、協力してやつていただきたいと思います。

同校は、発明工夫活動を授業の中に組み入れるというユニークな教育を実践していることで全国的にも知られ、郡市や県の発明工夫展でも数えきれないほどの入賞作品を出し、去る昭和五十三年には、創意工夫育成優秀校として科学技術庁長官賞を受けています。

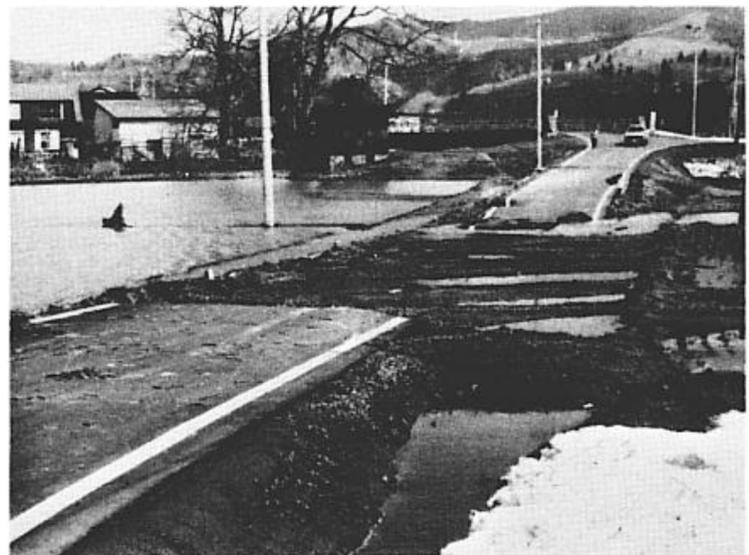
発明工夫は、発想や思考が自由な子供たちの創造性を伸ばし、豊かな心を育てるという面においても大きなプラスになるといわれており、こうした小さな発明家たちの今後の活躍が期待されています。

# 雨雪解けと水で河川はんらん

## 推定被害額 1億5千万円



→ 県道老方沼館線は、冠水により通行止めとなった(寺田地内)



→ 町道湯出野線は約六十センチにわたって路面・路盤が流失

低気圧が通過した四月六日未明から町内は終日雨が降りつづき、この雨と数日つづいた好天気で進んだ雪解け水によって河川がはんらんし、堤防決壊、家屋床下浸水、道路欠壊などの被害が各地で出ました。

秋田地方気象台は、六日午後三時十五分、県内全域に大雨・洪水警報を出すとともに、強風、波浪、融雪、雪崩の各注意報を発令しました。

東由利農業気象観測所(役場前)によると、六日午前五時から午後十時までの雨量は五二ミリを記録、町では午後六時に助役を本部長とする水害対策本部を設置、役場職員を動員して情報収集と警戒にあたらせたほか、町消防団全分団が出動し、警戒と被害拡大防止にあたりました。

### クマに注意!

昨年、県内ではクマの異状出没により、各地で被害がいくつかありました。

本町でも十一月九日にオス一頭を射止めたことは、記憶に新しいところです。

今年もクマが冬眠からさめて活動する時期になりました。山菜とり、ピクニックなどで入山するときは、次のことに十分注意して被害にあわないようにしてください。

- ・クマの被害防止法)
- ・二人以上で入山する。
- ・ラジオや笛などで音を出しながら入山する。
- ・食べ物や山に捨ててこない。

### 山火事の危険期!

#### 火の取り扱いに注意

・子グマのそばには親グマがいるので、絶対に近よらない。

森林は、木材等の供給のほか、水、酸素の供給、さらに国土の保全、レクリエーションの場等、私たちの生活に欠かすことの出来ない大切な効用を持っています。

今年もまた山火事のシーズンを迎えました。皆んなで次のことに気をつけ、森林を山火事から守りましょう。

- ・タバコの吸がらは必ず消す。
- ・焚火のあと始末を完全にやる。
- ・車から「タバコ」の投げ捨てる。

### 県政広報誌「あきた」

あなたもどうぞ

県政広報誌「あきた」は、秋田県広報協会が発行している月刊誌で、県勢の状況や秋田の過去、現在、未来を知るのにぴったりです。

購読料は年六〇〇円(月五〇円)で、年中役場企画財政課(広報担当)で申し込みを受け付けています。

### ガスもれ警報器で事故防止を

快適な生活に欠かすことのできないLPガスを、毎日なんの気なしに使っていませんか。

正しい知識と正しい使い方さえ知っていれば、いたって安全なガス。恐ろしい事故も未然に防げます。

- ◎点火したつもりが着火していなかった。
- ◎遊びコックをまちがって開いていた。
- ◎コックが完全にしまっていない。
- ◎風や煮こぼれで火が消えて

### 警察官異動

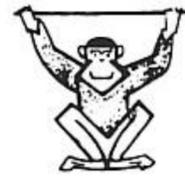
県警察官の定期異動により、本町駐在の警察官が四月一日付で次のとおり異動しました。

- ▼転入
- ・東由利警察官駐在所 石垣

### お詫びと訂正

四月一日発行三〇一号の十三ページ「佐藤氏に永年勤続功労章」の記事中、「四十年以上に……」となっていました。訂正いたします。

# 町民のひろば



人口	6,346人
総数	3,119人
うち男	3,227人
うち女	1,451人
世帯	148.51戸
面積	148.51km <sup>2</sup>
	(55.4.1)

## 盛大に設立二十周年を祝う

町建設技能組合

### 九名に感謝状・二名に表彰状

町建設技能組合(阿部健之助会長、組合員八十四名)では四月十九日、町開発センターで設立二十周年記念式を行いました。



20周年を機に、さらに技術の向上を図り、地域社会に貢献しようとして、式辞を述べる阿部会長

阿部組合長の式辞について、長い間役員として、また組合員として組合の発展に寄与してこられた九名の方に感謝状、二名の方に表彰状がそれぞれ贈られ、町長をはじめ来賓の方

東由利町報三〇二 昭和五十五年(一九八〇) 五月一日発行

昭和四十二年七月十八日第三種郵便物認可 発行 秋田県東由利町役場 毎月一日発行 一部20円 印刷 K K本間印刷所

々から祝辞が述べられました。同組合は、昭和三十六年四月、同業者の生活の安定と社会的地位の向上、並びに技術の向上を図るには大同団結する必要があり、六十八名で「建設労働組合」を組織、その後、昭和三十八年三月には「建設技能組合」と名称を変え、各種技能講習会、作業主任講習会、家族大運動会、労力奉仕活動などを実施、現在に至っています。

近年、オイルショック等により建設技能者を取りまく環境も厳しい中であって、組合員は、二十周年を機に、生活上の三要素、衣食住の「住」は我々が守っていくのだという認識と誇りを持ち、さらに技術の向上を図り、団結を強め、組合の発展と地域社会に貢献していくことをお互いに誓い合っていました。

### 善意

- ▽袖山小へ雑巾50枚 町連合婦人会袖山支部(畠山チエミ支部長)から
- ▽老方小へ雑巾160枚 町連合婦人会老方支部(佐藤久支部長)から
- ▽玉米小へ雑巾100枚 小松キヨミさん(宇戸坂)から
- ▽玉米小へ雑巾125枚 町連合婦人会館合支部(小野京子支部長)から



学校生活や友だちとの間では、人のめんどうみもよく、自分のことは自分でやるが、いったん家に帰れば、何をすることも親の手をわずらわし、とかく自分勝手なことがばかりする——これが、俗に「内弁慶」といわれる子供のタイプです。

### 内弁慶

張もするが、相手の言い分もきき、ときにはがまんもする——といった一定のルールの中で、自分の欲求実現や不満の解消などをうまくコントロールできない子供が、内弁慶になりがちだといわれます。

### 自主的な気持ちを持たせよう

つまり、外での不平不満を家庭に持ち帰って、親や兄弟など身近な人のそばで、自分の主張をガンコなまでに押し通そうとするのです。内弁慶になる原因はいろいろあるようですが、甘やかさ

方は次のとおり。(敬称略)

- 〔感謝状〕 小松竜一(下小路) 佐々木斉(大琴) 嶽石徳二郎(上通) 佐々木輝男(大琴) 佐々木日出男(大琴) 藤丸隆(田代) 佐藤清治(黒淵) 佐々木真二(新町) 小松君悦(十二の前)
- 〔表彰状〕 工藤保春(蔵新田) 小松俊博(久保)

### 熊田さん(西村工業所)から十万円寄贈

このほど、東京都の株式会社西村工業所工事部長・熊田英千夫さんから、町の発展のために役立ててもらえればと十万円が寄付されました。同工業所には、新沢の菊地光三郎さんほか七名が毎年出



### 誕生

おめでと

- 鈴木真衣子 舟打場 富男 長女
- 遠藤征裕 宿 芳裕 長男
- 金子真知子 新町 拓雄 長女
- 佐野健一 新町 拓和 長男
- 小野克好 上里 克弘 長男
- 遠藤 学 小倉 利美 二男



### 結婚

おしあわせに

- 高橋 与一 畑村
- 高橋 加代子 下小路
- 伊東 茂雄 高村
- 高藤 純子 大内町

お悔み申し上げます

- 佐藤忠治郎 時雨山 63歳
- 小野吉之助 祝沢 84歳
- 佐藤徳治郎 大吹川 76歳